

2021年10月 (No.388)

主な内容とページ

半導体の世界貿易、中国に変化	1
中国の半導体輸入、上期は最高更新	2
中国の世界シェアは低下	3
韓国の半導体輸出が低調	4
香港の中国化と半導体貿易	4
半導体世界大手、15社中7社が中国向け売上が過半	5
中国リスクと今後	7
半導体は「コメ」、「心臓」それとも「脳」?(SRL だより).....	9

半導体の世界貿易、中国に変化

今年上期の半導体の世界貿易は、活発だったが、中国のシェアが落ち込むなど変化が出てきた。

1. 中国の半導体輸入は活発だったが、世界全体に占めるシェアは減少傾向をみせた。昨年から米国との貿易紛争が激化、それらの影響が出た可能性がある。
2. 中国が世界の半導体貿易に占める比率は高く、これらは香港と一体となって行われ、香港の中国化に伴ってより中国主体になる傾向が強まろう。しかし、貿易上での香港の強みを失い、負担の増大は避けられない。
3. 世界主要半導体企業の中国依存度は高く、中国市場の変化は、これらの企業の活動に与える影響が高まる。

半導体は「コメ」、「心臓」それとも「脳」？

鉄に変わり「半導体は産業のコメ」といわれるようになったのはもう半世紀も前のころだったと思う。確か、わが国半導体産業の設備投資が1兆円台に迫り、その輝く存在が脚光を浴び始めた時期。当時の鉄鋼トップが、主役交代に「反動が怖い」と強気の設備投資に乙なコメントをされていたのを覚えている。

最近になって半導体は心臓あるいは脳ともいわれ、再び脚光を浴びている。われわれ業界人は、身が引き締まるどころだが、状況は大きく変わり、国家支援、海外先進企業の誘致と助け舟が必要になった。

今の状況は、わが国半導体の黎明期に似ているのではないか。米国で発明されたトランジスタをわが国は、ラジオに利用、世界商品に育て、それが戦後の復興に貢献した。ソニーは半導体のDNAが存在し、それが外資誘致の相手候補として活動する。時代は変わっても再び「ソニー」「ホンダ」に象徴される日本の躍進の再現を期待したい。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報をSRLの解釈と分析で表現したものです。

2021年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2021年10月(毎月1回発行)第32巻10号(通巻388号)

発行元: 株式会社 SRL

〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

October 2021, No.388

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014 Japan

Mail: info@semiconresearch.co.jp

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2021

購読料金 1年分(12号)98,000円(税別) 107,800円(税込み)